

## 第4学年〇組 外国語活動学習指導案

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)

指導者

ALT

場 所

1 単元名 Let's move our bodies. 体を動かそう。

### 2 単元観

本単元では、オリジナルビレッジへ友達を誘う場面において、相手に分かりやすいように自分の村のこと説明することを中心にコミュニケーション活動を展開する。具体的には、まず①ICT機器を活用して、教師が作ったオリジナルビレッジとそこで行えることの様子を紹介し、単元への児童の関心を高める活動を行う。次に、②既習の英語表現を組み合わせ村の紹介に関わるコミュニケーション活動を行い、「気持ちを伝える(能力)」ことで、友達やALTと「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度(資質)」を育む。また、③自分たちの村について、互いに尋ねたり答えたりする対話を通じて、論理的思考力・判断力・表現力等、国際社会で求められるコミュニケーション能力の素地を養う。

本時のコミュニケーション活動では、それぞれが考えた村の情報交換をし、どの村に引っ越すかを決める活動を行う。コミュニケーション活動を通して、人とは違う自分を発見することで「自己理解を深める」と同時に級友に対して関心をもつなど「他者理解も深める」ことができ、学級の望ましい人間関係づくりにもつながる。

モジュール(短時間)学習では、本単元でねらう「積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度」と「コミュニケーション能力の素地」を育むために、既習の表現を用いたコミュニケーションに慣れる活動を設定する。週3回、15分間の学習で慣れ親しんだコミュニケーションをもとに、45分間の活動では「あいづちや反応を示し合いながら、自分の考えが伝わった、友達の言いたいことがわかった」というコミュニケーション活動を行う。その活動では、児童が自信をもってコミュニケーションが図れるよう、また、「分かち合うこと(=コミュニケーションの原義)」の大切さと楽しさ(成功体験)を積ませるよう活動を工夫していく。

### 3 児童観

<省略>

#### 4 指導観

4年生になり知的好奇心も高まってきていることから、パターン・プラクティス（表現習得のために繰り返し行う口頭練習）やダイアログ（対話）の暗唱で終わることがないよう様々なアクティビティを通して、児童が意欲的に活動し表現や語彙に慣れ親しむことができるよう工夫していく。また、既習事項ではないことは日本語を使用しても良いことを児童に伝え、英語に難しさを感じている児童にも安心して取り組める活動にする。英語に対して難しさを感じていない児童には、よりよい会話の仕方を考えさせたり会話の持続性をもたせたりすることで意欲を高めていく。また、多様な考えを認め合うことで学級内での望ましい人間関係を育んでいきたい。

本時の活動では、最後のアクティビティに「世界の村で発見！こんなところに日本人～オリジナルビレッジに友達を招待しよう～」を設定することで、自分の考えた村の紹介や友達を誘うためのやりとりのコミュニケーション活動に目的をもたせる。お互いに会話をする際には、相手と円滑なコミュニケーションを図る上で必須とされる「声の大きさ、視線の配り方、表情」についても指導していきたい。いずれも、国際社会で求められるソーシャル・スキルだからである。

またティームティーチングを行うにあたって、担任（T1）とALT（T2）の役割分担を明確にしておく。そのために、担任は、教材研究や打ち合わせの段階で、授業の計画・進行・評価だけでなく、言語活動（コミュニケーション活動）のモデリングとして授業を行い、授業を進行していく。また、児童が不安を抱えたまま活動が進むことがないようにアクティビティの説明等、児童の理解度を確認しながら授業を進める。

ALTは、様々な活動の中で児童と実践的なコミュニケーション活動を図る役割を果たす。ALTの活用については、本時では「あいさつを初め、コミュニケーション活動で用いられる語彙や表現、コミュニケーションの仕方」等について、児童と対話しながら進めていく。そうすることで、友達だけでなくどの児童もALTと必然的に対話することができる。

このように、外国語（英語）によるコミュニケーションに「ふれる、慣れる、親しむ」という一連の活動の中で、ALTや友達と積極的にコミュニケーションを図る楽しさに気付かせ、自分の気持ち、考えや意図を伝える活動を通して、児童の主体性や論理的な思考力・判断力・表現力及び行動力の素地を育んでいきたい。

## 5 単元の目標等

### (1) 単元の目標

- ・身近な動作の言い方を知り、オリジナルビレッジでできることを紹介しあうことを通してコミュニケーションを楽しむ。

【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（資質の育み）】

- ・「～できる。」という表現に慣れ親しむ。

【コミュニケーション能力（能力の育み）】

- ・英語の動作を表す言葉に興味をもち、言語や人、それぞれに違いがあることを知る。

【言語や文化についての体験的理解・発信（気付きの育み）】

### (2) コミュニケーションの働き

- ・相手の行動を促す。
- ・気持ちを伝える。
- ・考えや意図を伝える。

### (3) 表現

Where do you live? Can I stay there? What do you have? I have a ~ tent for you.  
You can ~.

### (4) 主な語彙

run, walk, swim, play, stand, sit, raise, lower, tap, etc.

## 6 評価の観点と評価規準

評価の観点	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（資質の育み）	コミュニケーション能力（思考・判断・表現の諸能力の育み）	言語や文化についての体験的理解・発信（気付きの育み）
評価規準	・オリジナルビレッジについて質問したり、答えたりして ALT や友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	・オリジナルビレッジ紹介で使う基本表現を使いながら、友達に質問したり、答えたりして自分の考えを伝えている。	・英語の動作を表す様々な表現が日本語と英語とでは異なることに気付いている。

7 単元の指導と評価の計画（全4時間扱い）本時4/4

過程	第1時	第2時	第3時	第4時(本時)
目標	オリジナルビレッジをつくる活動を通して学習に興味をもち、日本と外国との文化の違いを概ね理解する。	オリジナルビレッジを紹介する活動場面において、質問を尋ねたり答えたりする等、自分の気持ちや考えを概ね伝える。	オリジナルビレッジを紹介する活動場面において、質問を尋ねたり答えたりする等、自分の気持ちや考えを概ね伝える。	オリジナルビレッジの紹介の仕方を知り質問に答えたりして積極的にコミュニケーションを図る。
1 あいさつ	Stand up, please. Hello, Mr. _____, and Mr. _____.			
2 ウォームアップ	Hello, how are you doing? (a boy and a girl)			
3 言語活動 (コミュニケーション活動)	<b>【ふれる】</b> ○本単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。	<b>【ふれる】</b> ○復習 ○Simon says ・語彙の確認 ・発問を交えながらインタラクティブに行う。	<b>【ふれる】</b> ○復習 ○Simon says ・語彙の確認 ・発問を交えながらインタラクティブに行う。	<b>【ふれる】</b> ○復習 ○ミッシングゲーム ・語彙の確認 ・発問を交えながらインタラクティブに行う。
	<b>【慣れる】</b> ○ペアプラクティス ・Simon says で使う言葉に慣れ親しむ。	<b>【慣れる】</b> ○ペアプラクティス ・インタビューで使う言葉に慣れ親しむ。 ・児童の理解度を確認しながら進める。	<b>【慣れる】</b> ○ペアプラクティス ・インタビューで使う言葉に慣れ親しむ。 ・児童の理解度を確認しながら進める。	<b>【慣れる】</b> ○ペアプラクティス ・インタビューで使う言葉に慣れ親しむ。 ・児童の理解度を確認しながら進める。
	<b>【親しむ】</b> ○Simon says ・色々な動作を表す表現に慣れ親しむ。	<b>【親しむ】</b> ○インタビュー ・友達とオリジナルビレッジを紹介し合う。 ・自分の行きたい村を伝え合う。	<b>【親しむ】</b> ○インタビュー ・友達とオリジナルビレッジを紹介し合う。 ・自分の行きたい村を伝え合う。	<b>【親しむ】</b> ○インタビュー ・友達とオリジナルビレッジを紹介し合う。 ・自分の行きたい村を伝え合う。
4 振り返り	カードに振り返りを記入し、本時の学習について自己評価をする。			
5 あいさつ	Thank you Mr. _____, Thank you Mr. _____.			
使用表現・語彙	Simon says 動詞	What can I do there? You can ~. 場所に関する語句 動詞	I have a ~ tent for you. 場所に関する語句 動詞 形容詞	What do you have? 場所に関する語句 動詞 形容詞 村にあるものに関する語句
評価の観点と評価規準	外国と日本の様子を比べ、その共通点や相違点に気付いている。(気付きの育み)	オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に理由を添えて答えたりしている。(能力の育み)	オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に理由を添えて答えたりしている。(能力の育み)	オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に答えたりして、積極的にコミュニケーションを図っている。(資質の育み)
モジュール学習の目標	・オリジナルビレッジでできることを積極的に伝え合おうとする活動を通して、様々な英語表現に慣れ親しむことができる。【コミュニケーション能力(能力の育み)】			
モジュール学習の活動内容	1・2・3	4・5・6	7・8・9	10・11・12
	・オリジナルビレッジをつくる。 ・ロングの時間に使用する表現に慣れ親しむ。	・オリジナルビレッジをつくる。 ・ロングの時間に使用する表現に慣れ親しむ。	・オリジナルビレッジをつくる。 ・ロングの時間に使用する表現に慣れ親しむ。	・オリジナルビレッジをつくる。 ・ロングの時間に使用する表現に慣れ親しむ。

8 本時（第4時）のねらい、評価観点、評価規準

- ・ねらい：相手に反応しながらオリジナルビレッジについて伝え合う。
- ・評価観点：積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度（資質の育み）
- ・評価規準：オリジナルビレッジを友達に紹介したり質問に答えたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

9 本時の展開

※S：児童

HRT：担任

ALT・ALT

過程	○児童の活動	ティームティーチング		・指導上の留意点 ◎教材 ◆評価規準と方法
		担任の活動	ALTの活動	
挨拶 3分	○日直の挨拶で授業を始める。 S：Hello, Mr. . ALT：Hello, everyone! S：Hello, Mr. . HRT：Hello, everyone! HRT：How are you? S：I'm pretty good!  ○友達同士で気分について尋ね合う。 【児童の対話例】 A: Hello, how are you? B: I'm pretty good, how are you? A: I'm fine. B: See you! A: See you!			・これから活動が始まることを意識させるように、元気よくあいさつをする。 ・実際の場面に即したあいさつになるようにペアであいさつをさせる。  ・アイコンタクト、クリアボイス、リアクションを意識させる。
復習 5分 ふれる	○復習 ・インタビューで使う語彙に慣れ親しむ。 ○ミッシングゲーム ・本時で使う言葉に慣れ親しむ。	・正しく聞いたり発音したりしている児童を称賛する。	・児童に今まで習った語彙を復習させる。	・多くの児童が色々な表現に触れながら活動できるように児童とコミュニケーションをとりながら語彙の復習をする。  ◎絵カード
展開  10分 慣れる	○ペアプラクティス HRTとALTのデモンストレーションの後、ペアの児童とオリジナルビレッジの紹介を練習する。	・ALTと一緒にデモンストレーションをする。 ・活動が滞っている児童を見つけ、声かけをする。	・担任と一緒にデモンストレーションをする。 ・活動が滞っている児童を見つけ、声かけをする。	○本時のめあての具体的な姿を児童と確認する。  世界の村で発見！こんなところに日本人～オリジナルビレッジに友達を招待しよう～  ・担任とALTのデモンストレーションでは、担任は理由を日本語で話す例も示すことで、日本語でもよいことを理解させる。 ・ペアやグループでコミュニケーション活動を行うことで児童に自信をもってコミュニケーション活動できるようにする。 ・最後にお互いに「褒め言葉を添えて対話すると良い」ことを伝える

	<p>【児童の発話例】  A: Hello. How are you?  B: Good. You?  A: I'm good, too. Look, this is my village.  B: Nice. Where do you live?  A: ~.  B: What do you have?  A: 村にあるいろいろなものを紹介する。(日本語可)  B: Great. Can I stay there?  A: Yes. I have a ~ tent for you.  B: Lovely. What can I do there?  A: You can ~.  B: Thank you.  A: See you.  B: Bye!</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間に一文ずつ表現を加えていき、児童の負担とならないように留意する。</li> <li>・モジュールの時間に復習を行い、自信をもってインタビュー活動に取り組めるようにする。</li> </ul>
<p>親 し む  21 分  ま と め</p>	<p>○オリジナルビレッジへの招待  ・児童間でインタビュー活動を行い、行きたい村を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の説明を聞いた児童の理解度を確かめ、補足説明を行う。</li> <li>・活動が滞っている児童を見つけ、例を示したり一緒に発話したりして支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の仕方を説明する。</li> <li>・児童とコミュニケーションを図りながらゲームを進めていく。</li> </ul>	<p>◆オリジナルビレッジに友達を招待したり質問に答えたりして、積極的にコミュニケーションを図っている。【資質の育み】〈行動観察・振り返りカード〉</p> <p>【参考：教師用「評価規準：A,B,C」】  A：オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に答えたりしながら、同意や称賛、相づちをし、会話をつなげてコミュニケーションをより豊かにしている。  B：オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に答えたりすることで楽しくコミュニケーションをしている。  C：オリジナルビレッジに友達を誘ったり、質問に答えたりすることが出来ず、積極的にコミュニケーションをとれない。</p>
<p>振 り 返 り  5 分</p>	<p>○本時の活動を振り返る。振り返りカードに記入する。</p>	<p>・児童の活動で好ましい変容や相手に反応を示していた活動について総括する。</p>		<p>◎振り返りカード  ・本時のねらいに対する児童の活動を評価規準にそって評価し、次の時間への意欲を高めさせるようにする。</p>
<p>挨拶  1 分</p>	<p>HRT: That's all for today.  ○日直が号令をかける。  S: Thank you, Mr. .  ALT: Thank you, everyone.  S: Thank you, Mr. .  HRT: Thank you, everyone. See you.  S: See you.</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気よくあいさつをさせる。</li> </ul>

## 10 板書計画

1/28

世界の村で発見！こんなところに日本人～オリジナルビレッジに友達を招待しよう～

〈インタビューの流れ〉

①あいさつ→住んでいる場所→テントの紹介  
→できることの紹介→あいさつ

村にありそうなもの、形容詞、動詞  
絵カード

# 【Let's move our body.】

## 名前

日付	ふりかえり	今日の授業をふりかえって数字を書きましょう。(3よくできた2できた1もう少し)			MVP or MIP
		友達や ALT と楽しく会話できた。	英語を使って会話することができた。	外国と日本を比べて、文化や言葉のちがいに気付いた。	
		3:表情、視線、相づちを意識して、会話を楽しんだ。	3:今まで習った表現を使って会話を続けることができた。	3:言葉や文化が似ているところやちがうことがあることに気付いた。	